

医療法人名古屋放射線診断財団

岩田 宏 理事長に聞く

医療法人名古屋放射線診断財団が運営する東名古屋画像診断クリニックが10月、名古屋市昭和区山手通2丁目に新築移転し、オープンした。最新医療機器の導入に加え、会員制健康診断サービスを刷新し、地域医療へのさらなる貢献を目指す。新施設の特徴や今後の展望について、同医療法人の岩田宏理事長に聞いた。



—2008年に東名古屋画像診断クリニックを名古屋市千種区の愛知県がんセンター隣接地に開院。18年ぶりの移転、オープンです。新施設の概要、特徴を説明してください。

岩田宏・名古屋放射線診断財団理事長 10月1日にグランドオープンしました。5階建て、延べ床面積は4,252㎡で旧施設の約1.6倍となりました。CTや乳房専用PETは移設し、最新のPET-CTとMRIをそれぞれ2台導入することで、より高度な画像診断体制を整備しました。

当クリニックはこれまでも、周辺地域の医療機関からの依頼検査（保険診療）と会員制健康診断CELEB（自由診療）の両輪で地域医療を支えてまいりました。今回の移転では、その両方をさらに発展させるため、「機器」「空間」「健診」の3つの進化を実現しています。

—具体的な「3つの進化」とは。

岩田理事長 「機器の進化」では、最新のPET-CTとMRIを導入し、AI技術も活用することで、より高精細な画像診断と検査時間の短縮を実現しました。PET-CT、MRIともに検査時間を従来の約30分から20分程度へ短縮でき、受診者の身体的負担軽減につながっています。またMRIに関しては、従来の検査枠の約1.5倍の方にお受けいただけるようになりました。

「空間の進化」では、会員専用個室を6室から10室へ増設しました。全室に窓を設け、待ち時間も快適に過ごしていただける環境を整えています。また会員専用フロアや専用動線を設けることで、プライバシーにも配慮しています。

「健診の進化」では、「じぶんの身体と、向き合う贅沢。」をコンセプトに会員制健康診断CELEBを刷新しました。すべてのコースにすい臓・胆のうを詳しく調べるMRCP検査や膵がんの腫瘍マーカーを追加導入するなど、健診項目を充実させました。また健診後のアフターフォローが充実しているプレミアムコースを新設しました。

—新設したプレミアムコースとは。

岩田理事長 プレミアムコースは、「健診を受けて終わり」ではなく、その後の健康管理までサポートすることを目的に新設しました。従来の検査内容をさらに充実させたうえで、半年後のフォローアップ検査や1年間の再検査無料サポート（医師が必要と判断した場合）、医師による結果相談サービスを提供しています。

—診断でのAIの活用は。

岩田理事長 AI技術は、これまでに蓄積された膨大な診断データを学習することで精度が向上していきます。今後さらにデータが蓄積されれば、特定の領域ではより高い性能を発揮する可能性もあると思います。

一方で、AIは過去のデータを基に判断するため、学習データにない病変や複雑な症例への対応には限界があります。そのため、最終的な診断には医師の経験や知識、数多くの症例に向き合ってきた臨床的な判断が欠かせません。

当クリニックでは、AIの技術と放射線診断専門医の経験を組み合わせることで、より質の高い画像診断の提供を目指しています。

—医師の体制は。